

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
 大学院生研究
 2006年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院			社会学 研究科		社会学 専攻	
指導教員	所属・職名			氏 名			
	社会学部 社会学科・教授			松本 康 印			
自然・人文の別	自然 ・ 人文			個人・共同の別		個人 ・ 共同 名	
研究課題名	コスモポリタンな消費下位文化―「独立系ストリート・カルチャー」を事例として―						
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年			氏 名			
	社会学研究科 社会学専攻 博士課程後期課程 1年次			三田 知実 印			
研究組織	在籍研究科・専攻・学年			氏 名			
研究期間	2006		年度				
研究経費	200		千円				

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、グローバル都市における消費下位文化の実践過程の理論を構築してきた。理論の骨子は次の通りである。

グローバルに活動する文化生産者のネットワーク成員がグローバル都市に集まり、東京の渋谷・青山・原宿といった大規模商業集積地の周辺における古くからの住宅街であった細街路というローカルな場面で下位文化集団として顕在化する。そして、彼／彼女らが、成員内部で物質的資源、経済的資源、そして象徴的資源を互換することによって、消費下位文化を実践している。そしてその下位文化集団の活動が、グローバルな文化生産の中核としての都市空間を形成しているということが明らかになったのである。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[消費下位文化] [文化生産者] [下位文化集団]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本学大学院社会学専攻後期課程 1 年次の三田知実は、「独立系ストリート・カルチャー」を構成している店舗のひとつである、東京南青山の独立系カフェ「Favela(ファベラ)」にあつまる客であると同時に、グローバルに活動している文化生産者によって形成されている下位文化集団「Flip Fantasia (フリップファンタジア)」の活動を事例として、グローバル都市における消費下位文化の実践過程を研究している。2006 年度末において本研究は、博士学位論文の構成が決まり、執筆活動を行える状況まで進展した。本研究における、主張点と理論的意義を確認すると、以下のようになる。

グローバル都市においては、グローバルな新しいライフスタイルを実践することを望み、既存の大資本・行政や地域集団から相対的に独立したグローバルに活動する文化生産者のネットワークが形成される。彼／彼女らは、既存の消費文化の呼応的スタイルを文脈としていることや、既存の商業的アメニティの集積からの波及効果による集客性といった理由により、大都市内部の商業集積地周辺の細街路を選択する。そしてその地区で、ネットワークが下位文化集団として顕在化し、成員によるコラボレーション、情報や想像力によってさまざまな呼応的スタイルの財やサービスが生産され、それを販売する店舗が出現し、成員によって消費されている。こうして、新しいライフスタイルを実践するグローバル都市に特徴的な消費下位文化が形成される。大都市内部の細街路では、グローバルな呼応的スタイルを文脈とした独創的な店舗が多く集積するが、グローバルな消費下位文化の下位文化集団成員は、常にコラボレーションによる呼応的スタイルやライフスタイルの刷新と、消費文化資本の更新により、消費下位文化の個別性を維持し続け、外社会からも認知される。同時にメディアの作用により、消費下位文化の潜在的成員としての消費者を多数生み出し、彼らによってその地区で財やサービスが消費される。こうしてこの地域の商業的アメニティが向上する。それによって消費下位文化が叢生、維持、発展する。

そして、こうして地域を発展させた消費下位文化の成員である文化生産者の社会関係資本は、文化的実践を行うための物質的資源、経済的資源と、象徴的資源によって構成されており、それらを互換することによって、ポピュラーな消費文化から相対的に自立した文化の実践を行っている。こうしてグローバル都市における消費下位文化は、グローバルに活動する文化生産者の社会関係資本に基づいて実践され、彼／彼女らはグローバルな文化生産の中枢である都市空間を形成、維持、発展させているのである。

同時に、消費下位文化においては、文化生産者が意図的に差異化をはかりながら、消費者としての高い消費下位文化資本を保有している潜在的成員としての消費者を選別することにより、消費下位文化を維持している。こうして、グローバル都市における消費下位文化は、文化生産者による継続的な差異化を伴いながら実践されているのである。また同時に文化生産者は、グローバルな文化生産の中枢としての都市空間を維持しているのである。

この主張を、博士学位論文(6章構成)の第1章で記述し、以下の5章によって事例をとおして理論を詳細に検討し、考察してゆく論文を現在作成中である。

まず第2章においては、「消費下位文化主導型地域発展」という文化生産者による自発的ネットワーク主導型でスタイル志向の地域発展パターンの特徴を明示し、文化生産者が消費下位文化を地域に根付かせる活動をすることによって、グローバル都市東京における消費下位文化の興隆過程を示す。第2章から以下のようなことが明らかにされた。ある地域に、新しいライフスタイルを実践することを望み、そのためのスタイルを生産する大資本・行政や地域集団から相対的に独立したグローバルに活動する文化生産者のネットワークが形成される。そしてそのネットワーク成員その地域で、下位文化集団として顕在化し、さまざまな分野のグローバルなスタイルが生産され、それを販売する店舗が出現する。そして、そうしたスタイルを生産する下位文化集団成員がさらに活動を続けることによって、「独立系ストリート・カルチャー」を構成する店舗の数は増えてゆく。

(次ページにつづく)

研究成果の概要 つづき

また同時にメディアによって当該消費下位文化や地区のイメージがさらに伝播してゆく。こうしてこの地域の商業的アメニティが向上する。こうして「独立系ストリート・カルチャー」というグローバル都市における消費下位文化はグローバル都市における文化中枢としての都市空間を形成してゆくのである。次に第3章では、独立系カフェ「Favela」を事例として、ライフスタイルやそれを構成する呼応的スタイルの生産において、グローバルな文化生産者ネットワークや文化生産者たちの想像力が重要な要素であるということを明らかにする。具体的に、カフェ Favela の呼応的スタイル生産過程において、文化生産者のグローバルなネットワークや想像力が重要な要素であるということや、Favela が、グローバルな文化生産者の結節機関となったことを示す。こうした事例を示すにより、本研究が事例としたエリアは、単に文化的に特権化された消費施設の集積地ではなく、グローバルな消費下位文化が文化生産者によって創りあげられていることを実感できる都市空間であることが確認する。これにより「独立系ストリート・カルチャー」というグローバルな都市消費下位文化は、グローバルな経済・ネットワーク・文化の結節点である現代大都市が備えている文化的創発性を示す下位文化の一形態であるということを提示する。第4章では、Favela を媒介として形成された下位文化集団 Flip Fantasia メンバーの活動を具体的に記述することによって、文化生産者の社会関係資本が、文化的実践を行うための物質的資源、経済的資源と、象徴的資源によって構成されており、それらを互換することによって、ポピュラーな消費文化から相対的に自立した文化の実践を行っていることが明らかにする。文化生産者が第一の目的としている、象徴的資源の獲得には、創造性が認められた文化生産活動を行う必要があるが、第4章においては、文化生産者によって生産された財・サービスが、彼／彼女らのあいだの資源の交換を通しての産物であるということが認められた。社会関係資本の観点からみれば、行為者である文化生産者が、上記の3つの資源を互換し、活動を継続するという戦略的行動が、しかるべきネットワークを形成、維持、拡大し、彼／彼女らは、下位文化集団を顕在化させ、文化生産活動をめぐるさまざまな局面への対応能力を高めてゆくのである。こうした事実を明らかにすることにより、グローバル都市における消費下位文化は、文化生産者の集まり形成された下位文化集団の活動によって、グローバルな文化生産の中枢である都市空間を形成、維持、発展させているということを主張する。つづけて第5章では、都市消費下位文化の文化生産者のネットワーク成員が、消費者としての潜在的成員とどのような関係を保ちながら、消費下位文化を維持しているのかという問題を、「独立系ストリート・カルチャー」全般を事例として考察する。端的に紹介すると、第5章を通して、都市消費下位文化においては、文化生産者が意図的に、消費者としての高い消費下位文化資本を保有している潜在的成員を選別していることにより、消費下位文化を維持していることが分かったのである。都市の消費下位文化的空間は、大規模商業集積地の細街路という地区で実践されることが多く、消費下位文化が主導となり既存の空間を洗練したのであるが、文化生産者は、こうした状況を危惧し予測したうえで、消費下位文化と、それが実践される空間の特殊性を維持するために、潜在的成員としての消費者の選別をしていると考えられるということを主張する。さいごに第6章では、第2章から第5章までの記述を確認したうえで、本章で記述した仮説と照合しながら考察と結論をのべてゆくこととする。結論を端的にいうと、グローバルな文化生産者のネットワーク成員がグローバル都市に集まり、東京の渋谷・青山・原宿といった大規模商業集積地の周辺における古くからの住宅街であった細街路というローカルな場面で下位文化集団として顕在化し、彼／彼女らが、物質的資源、経済的資源、そして象徴的資源の互換によって、消費下位文化を実践している。そしてその下位文化集団の文化生産活動が、グローバルな文化生産の中枢としての都市空間を形成、維持、発展させているということが明らかになったのである。

※ この(様式2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

【雑誌論文にかんしては、以下全て査読者の審査を経て掲載された審査付論文】

三田知実, 「消費下位文化主導型の地域発展——東京渋谷・青山・原宿の「独立系ストリート・カルチャー」を事例として——」『日本都市社会学年報』24: 2006年, 136-151.

三田知実, 2007, 「文化生産者による文化消費者の選別過程——東京渋谷・青山・原宿の『独立系ストリート・カルチャー』を事例として——」『応用社会学研究 宮島喬先生退官記念号・メディア社会学科開設記念号』49: 2007年, 立教大学社会学部紀要.

② 図書

【図書における掲載著作も、編集者による審査を経て掲載された審査付論文】

三田知実, 「グローバル都市における消費下位文化の実践過程——東京南青山「独立系カフェ Favela」を事例として——」奥田道大・松本康監修・広田康生・町村敬志・田嶋淳子・渡戸一郎編『先端都市社会学の地平』ハーベスト社.: 2006年, 150-170.

③ シンポジウム・公開講演会等の開催

特に該当するものはなし

④ その他

・立教大学大学院社会学研究科後期課程研究例会発表

2006年度 第4回例会 2006年9月30日(土) 14:00～15:30@立教大学12号館3階 B327教室

三田 知実「都市消費下位文化における経済的資源と消費下位文化資本—東京渋谷・青山・原宿の『独立系ストリート・カルチャー』を事例として—」

・報告書

三田知実, 「多機能共生のまちづくりに向けて——代官山地区のアーティスト・コミュニティの現状を事例として——」2006年度『立教大学社会学部社会学科野呂芳明研究室報告書』, 2007年.近刊.